

ジョイフル城北 スマイル城北



令和6年度 学校だより
ジョイスマ
令和6年4月24日
熊本市立城北小学校
校長

子どもは不完全、しかし、そこから感じる可能性

1年生の入学式が4月11日に行われました。今年の1年生は、60人です。3月の卒業式で、旧6年生が71人中学校へ進学したので、学校規模としては約10人減少しました。今、日本は少子化で人口減社会といわれていますが、本校でも同じ現象を見ることができます。

さて、その1年生ですが毎年恒例の校区の安全協会の方々による交通安全教室が4月16日に行われました。交通安全教室では、まず、運動場で横断歩道の渡り方や道路の歩き方などの説明がありました。そして、横断歩道を模ったシートを運動場に敷き、渡り方を確認しました。次は実際の横断歩道での渡り方の学習です。正門前の信号機のない横断歩道の渡り方「右見て、左見て、右見て渡る」を実際に言葉で言いながら横断歩道を渡りました。さらに、2丁目公園まで1年生と交通安全協会の方で出かけ、信号機のある横断歩道の渡り方も行いました。正門前の横断歩道と違い、交通量が多い自動車を通る道路を信号機の青信号になったのをきちんと確認して渡りました。本校校区の特徴として路地の多さがあります。子どもたちが登校する朝は、通勤通学の時間帯でもあります。狭い路地を自動車や自転車が通り抜けていきます。交通事故に十分注意して登下校をしてほしいと思います。

ところで、2丁目公園に出かける1年生の後ろを私がついていこうとしたときの出来事です。私の前にいた1年生女子が私に「君も一緒に行くの。」と問うてきました。私は「一緒に行くよ。」と笑顔で答えました。なぜ笑顔が込み上げてきたかというとき、きっとこの1年生女子は見慣れない大人(私)に、そのとき自分がもっている一番の丁寧な言葉遣いが「君も一緒に行くの。」だったと感じたからです。子どもはまだまだ発展途上で不完全です。しかし、その瞬間に自分の頭脳を最大限に使い、言葉を発したこの1年生女子に、すばらしい可能性を感じました。きっとこの女の子だけでなく、ほかの1年生も、ほかの学年の子どもも同じだと思います。子どもたちが発した何気ない言葉から、無限の可能性を感じた瞬間でした。

ところで、2丁目公園に出かける1年生の後ろを私がついていこうとしたときの出来事です。私の前にいた1年生女子が私に「君も一緒に行くの。」と問うてきました。私は「一緒に行くよ。」と笑顔で答えました。なぜ笑顔が込み上げてきたかというとき、きっとこの1年生女子は見慣れない大人(私)に、そのとき自分がもっている一番の丁寧な言葉遣いが「君も一緒に行くの。」だったと感じたからです。子どもはまだまだ発展途上で不完全です。しかし、その瞬間に自分の頭脳を最大限に使い、言葉を発したこの1年生女子に、すばらしい可能性を感じました。きっとこの女の子だけでなく、ほかの1年生も、ほかの学年の子どもも同じだと思います。子どもたちが発した何気ない言葉から、無限の可能性を感じた瞬間でした。

ところで、2丁目公園に出かける1年生の後ろを私がついていこうとしたときの出来事です。私の前にいた1年生女子が私に「君も一緒に行くの。」と問うてきました。私は「一緒に行くよ。」と笑顔で答えました。なぜ笑顔が込み上げてきたかというとき、きっとこの1年生女子は見慣れない大人(私)に、そのとき自分がもっている一番の丁寧な言葉遣いが「君も一緒に行くの。」だったと感じたからです。子どもはまだまだ発展途上で不完全です。しかし、その瞬間に自分の頭脳を最大限に使い、言葉を発したこの1年生女子に、すばらしい可能性を感じました。きっとこの女の子だけでなく、ほかの1年生も、ほかの学年の子どもも同じだと思います。子どもたちが発した何気ない言葉から、無限の可能性を感じた瞬間でした。

